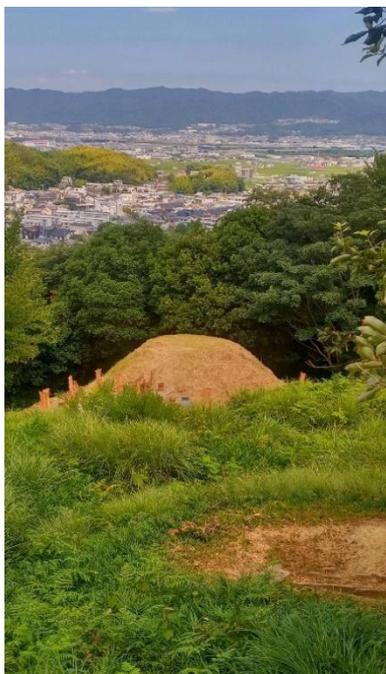


連日、外出を注意するほどの猛暑が続いていますが、そのような日々でも風土記の丘を散策される方は少なくありません。園路は標高 150 メートルの常緑樹の多い丘陵を縫っていますので、木々が厳しい日差しを遮るだけでなく、風が吹き抜けるところもあり、心地よさを感じながら散策することもできます。ホームページには「季節の花だより」も載せていますので、それらの花々を探しながら、自然の移ろいを味わっていただくのもいいかもしれません。ただ、風土記の丘園内には給水設備がありません。飲み物を持参したり、適切にベンチで休んだりしながら、体の状態に注意して散策してください。

ただ、こうした自然の豊かさは、風土記の丘という歴史的な名辞を付した公園という点からみると、いささか困る点もあります。岩橋千塚古墳群は日本を代表する群集墳として知られ、戦後間もなくのころに撮影された、尾根筋に無数の円墳が密集する空撮写真もあまりにも有名で、そのイメージをもって訪れる方も少なくありません。ところが、冬にはよく見える古墳も、暖かくなるにつれて成長する草や篠に覆われていき、とくに夏場にはその形がすっかり隠されてしまいます。

風土記の丘では計画的に園路や墳丘の草刈りを行い、古墳を見えやすくし、歩きやすい園路の維持に努めていますが、最近も業務班の職員さんたちが数か所園路の古墳の草刈りをしてくれました。ところどころの古墳にも足を延ばしながら、丘陵の散策を楽しんでいただきたいと思います。



Å 5 8 号墳



Å 1 3 号墳と園路

夏休みを迎えて、子供たちを中心とするイベントも数多く実施しています。そのうち、学芸員と一緒に博物館の仕事を学び、所蔵資料を実際に手に取って調べる「ジュニア学芸員講座」（7月26日）の成果作品と、HANI-1グランプリの埴輪王受賞作品は、資料館の入口ロビーに展示しています（9月1日まで展示）。

館内の展示室では、常設展に加えて企画展「和歌山フェイクアワード」を開催しています（9月8日まで）。フェイクというと美術品でいう贋作のイメージが強いものですが（細野不二彦さんの漫画『ギャラリーフェイク』はその代表でしょう）、本物をもとにした模造品として広くとらえ、模造品そのものが各時代で果たした役割や、それがもつ学術的・教育的な意味や可能性を考える内容になっています。ぜひご覧ください。

